

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375700669		
法人名	社会福祉法人瑞祥		
事業所名	グループホームオレンジ		
所在地	愛知県知多郡美浜町大字野間字新前田212-1		
自己評価作成日	平成25年8月26日	評価結果市町村受理日	平成25年9月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成25年9月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境の中、住み慣れた地域で利用者一人ひとりの人格を尊重し、安心してその人らしい生活を継続できるように努めています。また、加齢に伴う入居者の重度化(要介護5が1名・要介護4が2名・要介護3が3名)により、介護職の専門的知識や技術を高めることにより、手厚い介護サービスを提供することが必要とされており、そのニーズに応えることができるよう、職員の資格取得に対するサポートを行っています。その結果、介護福祉士資格取得者が職員8名の内4名となり、ヘルパー2級の資格取得者も合わせると、職員全員が資格を取得しています。平成25年度より科学的介護を推奨し、オムツゼロを目指して水分補給および日中のトイレでの排泄の援助等介護力向上の取り組みを開始しました。また、積極的に地域へ出向き、地域の方とふれあう機会や法人で行う「夏祭り」「餅つき大会」「昭和村」には、家族や多数の地域住民が参加しふれあいの場となっています。隣接した病院や老人保健施設、併設している特別養護老人ホーム、ケアハウスなど施設サービス、ヘルパー、デイサービスなどもあり医療、保健、福祉の複合施設で連携も密に行え、退居後の相談においても選択肢が豊富で、迅速に対応できる体制が整えられています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当法人は、モラロジー(道徳科学)精神を尊び毎年セミナーも行なわれ、周囲への感謝の心を持って生きるために会得すべき「心づかい」の方法を学び、それが地域へも貢献できるよう努めている。回想法の一環として、「昭和村」を作ったり、昔懐かしい題材をもとにした絵画による回想療法(ミッケルアート)で認知症抑制に取り組んでいる。本年度は、トイレでの排泄 オムツゼロの目標を掲げ、利用者の生活意欲の向上に努めている。また、外出支援や外出行事に家族が参加してもらい、家族との繋がりが深まっている。避難訓練には家族や役所の職員や地域の方の参加があり、11月に行なわれる地域の避難訓練では、町全体が災害に襲われた場合、事業所で何が出来るのかをテーマとして話し合う予定である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で、誇りや生きがいを持って暮らし続けることを重視した理念を事業所内に掲示しており、それを全職員に周知させ、一人ひとりの職員が理念遂行のための役割を理解し、利用者に安心して生活して頂くため、家族や地域住民の協力を得ている。	接遇や道德教育が理念に直結しているという思いから、全職員に理念は徹底して周知されている。利用者が地域の中で安心して自由に暮らせるようにという理念を常に考え行動している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地区祭礼や町主催の産業祭、文化祭作品展への出品等、積極的に参加し、法人主催の行事においては、1300名以上の地域住民、ボランティアとの触れ合いの場である夏祭りを開催。昭和村、文化祭、スポーツ大会等には多くの地域住民に参加して頂き、日常的な交流ができています。	町のイベントのようになっている「オレンジ夏まつり」は、地域住民も楽しみにしており、年々参加人数が増えてきている。今年の中学生のボランティアは5～6名訪れ、夏まつりの手伝いも一緒に行ってもらった。また、利用者に喜んでもらうために職員が創る「昭和村」も家族や地域の人も参加して、昔を懐かしく思い出している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外出行事を通して地域へ出向き、地元住民とふれあったり、サマーボランティアで小・中学生に介護を体験してもらうなど、地域で支えあうことの重要性を理解して頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況や活動報告、感染症予防、防災関連の取り組み等報告している。また、利用者、町、住民代表者や家族の方々より意見、要望をうかがい、それらを元にサービスや職員の質の向上に努めている。同会議において、住民代表者より防災訓練の参加の要望があり、6月に地域住民参加の防災訓練を開催し、地域との連携を深めることができた。	毎回のようには感染症予防や防災に関する取り組みについて会議で報告し、出席者から参考意見など教えてもらい、次に繋げている。運営推進会議より意見が出て、町内の7名程の参加の下、防災訓練を行なった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時に対応できるよう、日頃より行政担当者との電話連絡や直接出向くことで、報告、相談を通じた情報共有を行っている。また運営推進会議においても、毎回、行政担当者に参加して頂き、協力関係の構築や情報共有を図り、日頃の業務運営に理解を頂いている。	市町村とは、法人全体として密接な関わりがあり、情報をメールで交換することもある。避難訓練に役所の職員が参加するなど、協力関係が築かれている。定期的な防災訓練の前向きな取り組み方は、役所から高く評価されている。市の主催する研修には積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会に参加し身体拘束に該当する行為を理解したり、スピーチロック排除に向けた取り組みを行ったりした。薬剤による身体拘束の関連性を専門的に学び、利用者の認知症の周辺症状と薬剤の関連を理解し適切なケアを行うことで利用者に落ち着いた生活をして頂くことができた。又、玄関の自動ドアは、日中は開放状態とし自由な生活を支援している。	身体拘束については全員が周知しており、研修も定期的に行なっている。薬による身体拘束についても研修で学び、理解している。スピーチロックについても、時間を伝えることや先がみえる言い方をするように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法の研修を毎年開催し知識を高めるとともに、虐待防止への適切な介助方法や対応方法などの技術を身に付けられる様努めている。看護、介護、他の専門職と話し合い情報共有を行い、日頃から虐待防止の意識を高め、サービスの質の向上を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本人・家族に対し、制度に関するパンフレットなどにより情報提供をし説明を行っている。必要性が生じた場合は、関係者との話し合える機会が持てる体制が出来ている。また職員の知識及び意識向上の為に研修会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に施設内を見学したり、利用者や家族の不安や疑問などに解り易く説明したりしている。利用者や家族は、十分に納得され同意をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは日常のコミュニケーションの中で意見や要望を言える関係にある。またご意見箱を設置し、ご意見箱やアンケートから意見、要望を把握し、アンケート結果を公表しそれを業務改善に繋げることでサービスの向上、満足度のアップに繋げている。	家族からの情報を職員が共有し合うことにより、職員の対応が円滑に行なわれ、家族との関わりがより深くなってきている。ある家族より野菜の苗をもらい、成長の様子が、来訪する家族や利用者の楽しみとなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、毎週の全体会議や業務改善会議にて職員からの報告、相談、意見や提案を聞く機会を設け、的確な指導や意見交換を行うことで、業務の改善に繋げている。	職員からの意見や要望は段階的に上に伝える体制がとれている。毎月1回のケア会議の後、ミニ研修(連絡の取り方について、接遇について)などを行ない、ケアの向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	可能な限り職員の希望を踏まえ、規則に準じた配慮が出来ている。キャリアパスや介護職員処遇改善の導入を継続的に取り入れている。また、衛生委員会にて職員が働きやすい環境への取り組みを実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を年30~40回以上実施、出張報告会や外部からの講師による研修会に参加している。年に1度の職員の力量評価では自己評価、上司評価をすることで自らの力量を正しく理解させ、向上心を持てるシステム作りに努めている。資格取得のため各専門職が加わり資格取得の体制ができています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に加盟しており、情報交換や共通の課題等について検討し、サービスの質の向上に努めている。又、連絡協議会で行う研修会にも参加し、交流の機会を持ちネットワークづくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面接や見学等をして頂き、生活状況を把握したり、ホームの雰囲気を感じてもらったりし、そこから出た不安やニーズを抽出し、その解決に努めている。又、傾聴、コミュニケーションを通し、信頼関係の構築にも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の見学、面接時に家族等の要望や不安などを傾聴し、的確に聞きとりを行い、不安の軽減を図れるようにしている。状況にあった情報提供やサービス提案などを行い、信頼関係の構築を図る事が出来るように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族の状況を把握し、その状態や置かれている環境にあったサービスを提案し、的確な情報提供を行っている。又、当法人の特性である医療、保健、福祉の複合体の活用提案や、他のサービス事業者との連携も図り、紹介出来る体制を整備している。職員は他の事業所や地域資源についての知識を持つよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員は家庭的な雰囲気のなか、掃除、洗濯等の家事を一緒に行ったり、余暇活動としてクラブ活動を通して、それぞれが役割を持ち協力して作り上げ、喜びや達成感を共有できるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族や利用者の気持ちを理解しながら、お互いに気にかけている情報を提供し、精神面の援助や面会や行事参加などでふれ合う機会をつくっている。また家族と外出するなど、家族にも協力してもらって役割を持って頂くようにしている。本人と家族との絆を大切に、職員と家族で共に利用者を支え合う関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの店舗、雑貨屋などへの継続的な外出や、知人・友人が気軽に面会に来園できる環境作りを行うことで、馴染みの関係が途切れることがないよう支援に努めている。	入居する前に利用していた、だんご屋や呉服屋へ洋服を買いに行くなどを家族にも協力してもらいながら馴染みの関係を続けている。また、毎年法人の施設内に回想法の一環として、「昭和村」を作り利用者が昔を懐かしく思い出せる催しを行なっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来る事、出来ない事をお互いに補い合い、趣味や生きがいがある活動の場を作り、お互いが認められる環境を作っている。共同で生活している事を理解できるように職員が調整役となり支援している。又、連帯感を感じられる行事を計画し、親睦を深める機会をつくるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人やご家族が不安にならないように配慮し、病院や他施設に入院及び入所先への情報提供を行い、相談員やワーカー等との連携を図りながらの支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がどのような生活を望んでいるか、本人の言葉を傾聴し、自立支援に対する本人の希望、意向の把握を定期的に行っている。聞き取りが困難な場合は生活歴を含め、家族から情報収集を行うことで、本人の思いや希望、意向を把握できるように努めている。	日々の生活の中で、入浴時、リビングで寛いでいる時、部屋にいる時などの職員と1対1で話す機会に思いや要望をさりげなく聞いている。また、6か月毎にも定期的な聞き取りも行っており、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族また地域の方からのアセスメントをもとに、生活歴や生活習慣及び日課を把握し、サービスが開始になっても、急激な環境の変化が起きないように努め、グループホームの生活に反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの暮らしや生活のリズム、個々の状態を把握し、申し送りや日誌等で職員間での周知をしている。定期的なアセスメントにより心身状態や個々の能力等を心理面を含め多面的に捉え、全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン策定会議にて利用者、家族の意向及び希望を聞きとり、重度化しても利用者がより良く満足して暮らせるように、サービスの提供内容などを皆で検討し、ケアプランを作成している。介護職員からの視点で意見やアイデアを出している。また会議には家族の参加を促している。	毎月モニタリングを行い評価しており、それを踏まえて、6か月毎に計画を更新している。その際には、利用者家族や職員と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に日々の様子や身体状況の変化などを記録し、介護日誌では職員間で情報共有を行っている。その記録をもとに、毎月1回モニタリング評価を行い、必要時にケアプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望に応じて、病院受診の付き添い、介護保険申請の提出代行など柔軟な対応に心がけて、満足度の向上、サービスの質の向上に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にある馴染みの場所や商店などとの繋がりを大切にしている。行事等で、近隣の店や地元の名所、入居者にとって馴染みがあり、思い出深い場所に出向き、生活を楽しむことが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接した敷地内に協力医療機関があり、受診・通院などは、本人と家族の要望に応じて迅速に行っている。受診時、診察に必要な情報を、主治医に伝え、情報の共有が図られている。家族が付き添えなかった場合は、結果や様子を詳しく伝え、本人及び家族より安心が得られている。	利用者の入居前のかかりつけ医が隣接する協力医でもあるので、受診は職員や家族が付き添っている。眼科、耳鼻科など専門医には家族が病院の付き添いをしている。協力医と専門医とは情報提供票で連携をとっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の心身状況に変化があった場合は、隣接する病院の主治医に相談したり、併設施設の看護師に相談や状態確認をもらえ、受診の必要性の判断に迷う場合は、すぐに相談や指示が受けられるように体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院による身体機能、認知能力の低下を防ぐために、入院前後における本人の状態や支援方法などの情報共有を行い、医療機関と連携を図っている。入院生活中においても、安心して頂けるように職員は定期的に面会し、家族とも病状などを共有するように努めている。隣接する病院の関係者との日常的なコミュニケーション(グループ内交流)を通じて良好な人間関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化や終末期に対する本人及び家族の意向を確認し、サービス計画に反映させるよう努めている。また、必要があれば地域の関連機関(併設の特養や隣接病院)との協力体制を整え、方針を共有し、重度化した際の支援体制を整えている。	隣接する協力医が、協力的で状態変化がみられる場合は頻りに看護師の見守りがあり、ホームでできる最善策を、家族、職員と話し合いを行って支援に努めている。医療行為が必要な場合は隣接の病院などへ移転となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については、救急蘇生法の研修を開催し、実践的に学んでいる。夜間帯においては、応急処置マニュアルに沿って対応しており、職員間で周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立ち合いを受けた防災訓練の際に、指導を受け、職員が避難誘導の実践ができるようにしている。地震、火災、津波、台風等様々な災害を想定し、昼間・夜間想定による訓練を実施している。6月には地域住民の方々に防災訓練に参加してもらい、施設内の防火設備の状況、車イスの介助方法について説明を行うなど地域住民の協力内容を具体化することで協力体制を密にすることができた。	事業所は、災害対策については特に重要課題ととらえ、職員が、地震、津波、火災など、どんな災害でも対応ができるように、避難訓練を行なっている。また、職員個々の意識も高く、避難誘導がスムーズに実践できる人が多い。美浜町全域の防災訓練も法人の駐車場で開催予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全室個室であるため、日常生活の中でプライバシーが守られている。個々の声掛けや対応においても、尊厳を重視し介護にあたっている。又、利用者の個人情報に関しても外部の目に付かないように管理している。研修を行い、プライバシー保護に関する知識や技術を身につけられるよう努めている。	職員の接遇は周知徹底されており、利用者に対しても、言葉使いは丁寧で、利用者を尊敬しているのが窺える。書類など、目につきにくい場所に保管されており、個人情報保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でコミュニケーションを重視し、信頼関係の構築に努めながら関わり、職員が身近な相談しやすい関係となっている。また、外出行事等では、常に話し合いながら、自己決定が出来るように援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の入居前の生活が継続できるよう支援したり、本人の要望に沿えるよう話し合ったりし、日々の生活に取り入れる環境づくりに努めている。また、職員は利用者の体調やペースに合わせてながら、寄り添うケアに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の服選びを職員と共に、本人が決定出来るように関わり、身だしなみの大切さを感じてもらっている。居室洗面所には鏡が設置してありプライバシーの確保をしている。外出時にも、場所や天候等に合せ、職員と共に服を選び、お洒落の喜びを感じてもらおうよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の残存能力や本人の意向に配慮した食事の準備や片付けを、利用者と職員が共に行い、家事に参加出来る喜びを味わっている。本人・家族からの聞き取りや嗜好調査等の結果を栄養教室の内容につなげ、一人一人の好みにあった食事・おやつ作りの支援を行っている。	嗜好調査を年3～4回行い、それを基にして利用者の希望に添った献立になるよう努めている。誕生日にはその人の好きなメニューを作ることもある。また、月1回行われる栄養教室では、ケーキ作りや、おはぎなどのおやつを作り、利用者の楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量を確認し、小まめな水分摂取により1日に必要な水分量(1500cc程度)の確保や本人の嗜好に合わせた水分の種類を提供に努めている。本人の好みや習慣を大切に、重度化に対応して食形態を調節しながら、食べる意欲保持を図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入れ歯の方、自歯の方に合せ、本人の能力に応じた、丁寧な磨き方の指導や介助を実施し確認している。就寝前の義歯に関しては、専用の洗浄剤にて消毒をし、清潔を保っている。また、定期的にあセスメントを行い口腔内の状態把握を行い、その状態に応じたケアの方法を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握した上で介護度4・5の方に対してもトイレ誘導を行っている。トイレでの排泄の継続、オムツゼロの目標を掲げ、生活意欲の向上に努める。仮に失敗があった場合も本人の尊厳やプライドに留意し、その人の状況に応じた排泄習慣を援助している。	オムツゼロ運動の目標を掲げ、現在夜は3名程予防のためオムツを使用しているが、日中はオムツゼロである。職員は利用者の一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレの誘導や声かけをして、自立に向けた支援に努めている。食生活の中でも野菜や乳製品を取り入れ便秘予防に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	規則正しい生活習慣を継続し、食生活においては繊維質の多く含まれた野菜等で自然排便が出来るように努め、適度な運動や水分補給も確保出来ている。便秘予防では、牛乳など乳製品も活用し、トイレでの排泄を勧めることで便秘予防にも役立っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の習慣や希望などに合わせ入浴を援助すると同時に、体調なども考慮し実施している。また入浴を快適に楽しんでもらえるように、コミュニケーションを図りながら行っている。	利用者の好きな時間で入浴しているが、朝10時頃からの入浴を希望する人が多い。体調不良の場合は清拭など行い、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や睡眠状況、体調等に合わせ、休んでもらえるように環境づくりに努めている。夜間は、状態を把握をし、安心して寝られるように声掛けを行うなど、巡回の強化を図っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の処方箋や、お薬手帳を活用し個々の状態の把握をしている。希望に応じて、個々に薬を預かり、朝・昼・夕とケースに分け管理し飲み違い等が起こらないように管理している。服薬時は、利用者の能力に合せ必要時、服薬介助をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントやアンケート調査により個々の楽しみごとを発見し、要望に沿えるよう、行事内容等にとり入れ、気分転換や満足度向上に繋げている。また家事仕事での役割分担などを決め、生活の活性化を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人希望時に近隣のドラッグストア、ショッピングセンターにて買い物を楽しんだり、神社に散歩に出かけたりしている。また要望があれば、職員が介入し、家族との外出が出来るように、連絡・調整や必要な支援を行う様にしている。	利用者の要望に沿った買い物や散歩の支援に努めている。近隣のポストに手紙を出しに行く人やゴミを捨てに行く人など、戸外に出る機会はよくある。また、月1回買い物ツアーがあり、近隣のスーパーマーケットやドラッグストアなどへ出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力の下、個々に少額のお小遣いを管理し外出行事や買い物等で自分で使用して、金銭感覚が維持できるように援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、利用者と家族間で手紙のやり取りを行っている。便箋や切手の購入やポストへの投函の定期的支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度計・加湿器を用い快適な環境で過ごせるように配慮している。椅子に座りのんびりとテーブルを囲み会話ができるようにしたり、ホールや玄関に作品や年月日がわかる手作りのカレンダーや行事がわかるホワイトボードを飾ったりし、季節感や生活感を味わえるようにしている。	食堂兼ホールは天窓から光が差したり、窓も広く開放的である。窓際にソファが置いてあり、利用者が寛げる場所となっている。ホールには、習字や職員と利用者で一緒に作った夏祭りの工作などが飾られている。利用者同士ホールでゲームをしたり、工作するなど、一緒に楽しむことが多く、居心地の良さが窺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファが設置されており、気の合った利用者同士で会話を楽しむことができる、ホールのテーブル席は、固定ではなく自由に選んでもらえる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や寝具や入居前のなじみある物を自宅から持ち込み、本人と家族が相談しながら配置にも工夫し、個性のある居室となっている。居心地良く過ごせるように、家族の協力を得て、住み慣れた環境に近づけるように努めている。	居室はトイレやクローゼット、エアコンが設置されている。掃除は行き届き清潔である。テレビ、写真、観葉植物、イスなどが置いてあり、それぞれ個性的な居室となっており、居心地の良さが窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	何が分かりにくいのか、また本人がどのような事ができるのかを考え、身体状況に合わせて手すりの設置やスロープの設置、段差をなくすなど安全に安心して生活できるような環境を整えている。また居室入口毎に色紙やネームボードを飾ることで落ち着いた環境で過ごしてもらえるよう配慮も行っている。居室の配置も本人の状態に合わせて職員間で話し合い配置換えを行い、安心かつ自立した生活ができるように支援している。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2375700669
事業所名	グループホーム オレンジ

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい (外部評価項目: 2)	評価
	地域の春まつりの餅投げに参加したり、文化祭に出品する作品をみんなで作りそれを見に行ったり、また、法人の夏まつりには年々地域の人の参加が増えるなど、地域に密着した関わりができています。地域のボランティアも増え、今年はミュージックセラピストによるハーブ演奏会が行なわれた。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み (外部評価項目: 3)	評価
	会議は年6回行っており、毎回様々な議題で話し合っている。特に最近、防災や感染症に関する内容を毎回のよう議程にあげて取組みを報告し、意見交換を行なっている。会議の出席者より防災訓練に参加したいとの声があり、7名程が訓練に参加して、意見をもらい次回につなげるよう取り組んでいる。	○
重点項目③	市町村との連携 (外部評価項目: 4)	評価
	月1回美浜町の地域ケア会議があり、それに出席して報告や相談をし、情報の共有を行なっている。防災訓練に職員の参加もあり、定期的に訓練を実行して安心であると好評を得ている。市町村主催の研修にも積極的に参加している。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映 (外部評価項目: 6)	評価
	カラーで内容も豊富な見やすい「オレンジ通信」を3ヶ月ごとに発行している。家族との関わりがますます深くなり、馴染みの店に家族に連れて行ってもらうたり、買物ツアーに参加してもらっている。家族アンケートを行ない、結果を公表しサービスの向上に努めている。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	○	○	○	○	○	

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況 (外部評価) が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取組みがなされ、その事実が確認 (記録、写真等) できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的 (年2回以上) に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的 (年2回以上) に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。